

## 第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

H. R. コーポレーション
----------------

②評価調査者研修修了番号

S2020134
S24204
HF19-1-003

③施設名等

名 称：	さくらこども学園
施設長氏名：	中河 篤司
定 員：	42名
所在地(都道府県)：	兵庫県
所在地(市町村以下)：	赤穂市新田1444番地
T E L：	0791-46-0332
U R L：	<a href="http://www.sakuradani-fukushikai.com/">http://www.sakuradani-fukushikai.com/</a>

【施設の概要】

開設年月日	2010/4/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人桜谷福祉会
職員数 常勤職員：	22名
職員数 非常勤職員：	2名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（ウ）	社会福祉主事
上記有資格職員の人数：	4名
有資格職員の名称（エ）	教員免許
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
施設設備の概要（ア）居室数：	1人部屋30室 4人部屋3室
施設設備の概要（イ）設備等：	心理療法室 親子生活訓練室
施設設備の概要（ウ）：	病後児保育室 医務室 静養室
施設設備の概要（エ）：	ショートステイ（短期入所）用個室

#### ④理念・基本方針

##### 桜谷福祉会基本理念

- ①公益的事業の積極的取り組み ②人権を擁護する ③発達支援、自立支援に向けたサービスの確立  
④医療、教育、福祉の連携強化 ⑤地域社会との共生

##### さくらこども学園運営方針

- ①こどもの権利を擁護し安全で安心な生活の場を提供する ②養育の質を高め、発達と自立を支援する  
③専門性を発揮できる人材の育成 ④家庭や地域の子育てを支援する

#### ⑤施設の特徴的な取組

赤穂市内に高齢者施設（特別養護老人ホーム・通所介護事業所・居宅介護支援事業所・在宅介護支援センター）、兵庫県内に高齢者施設・保育施設を有する社会福祉法人が運営する施設である。法人全体の運営管理体制が確立され、法人内の各種会議・委員会、施設内の各種会議・委員会が連動的に機能している。毎年理念研修・理念説明者養成研修を実施し、法人理念・基本方針の周知徹底を図っている。経営5カ年計画・事業計画を策定し、毎年、全職員に向け事業計画説明会を実施し、4半期ごとに進捗状況を確認しながら、法人代表者のリーダーシップのもと、職員が参画して法人の理念・基本方針の実現に向け取り組んでいる。第三者評価を定期的に受審すると共に、受審しない年も毎年第三者評価の評価基準に沿って自己評価を行い、サービス評価委員会が中心となり、職員が参画し計画的・継続的にサービスの質向上に取り組んでいる。人事考課制度・目標管理・研修体制の整備・充実により職員の資質向上に取り組んでいる。マニュアル・フローチャート・記録が整備され、エビデンスにもとづいた支援が行われていることが確認できる。

#### ⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2021/7/30
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2022/1/7
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成30年度

#### ⑦総評

##### 「特に評価が高い点」

○施設全体の年間目標やグランドルールを、子どもが提案した案を食堂に掲示して投票により決定し、職員と子どもが絶対守る約束として「全体集会」で共有している。毎月子ども全員に行う「聞き取り」調査で、グランドルールの実践状況を確認し、学期毎の全体会議の中で各ユニットの評価や反省を発表し、目標達成に向け取り組んでいる。

○毎月の「聞き取り」調査の中で、子どもの意見・要望等を聴くと共に、権利侵害が行われていないかを確認している。ユニット別・年代別・テーマ別等で、随時「話そう会」を開催し、自分たちの生活について話し合う機会を設けている。話し合いの下で決定したユニットのルールを、ユニット内に掲示して共有し、自分たちの生活に反映させるよう取り組んでいる。

○自立支援終結までの流れに沿って、小学校1年生以上の子どもについて児童進路希望調査をもとに、子ども自身が考える将来の姿を共有して進路決定を支援している。自立支援計画については、自立支援計画作成フローチャートに沿って、8種類の書式によるPDCAサイクルに基づいた評価見直しを行いながら自立支援に取り組んでいる。

○男子棟・女子棟・幼児棟の3棟5ユニット体制をとり、小規模グループでの養育を行う環境を作っている。小学生以上は個室を用意し、家具・日用品・学用品等を個別所有とし、個々の趣味や好みに応じた居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。共用スペースは家庭的な雰囲気づくりを行うと共に、壁に「ユニット目標」「ユニットの約束」や個別の「月間目標・チェック」を掲示し、意識付けを図っている。

○各ユニットに、年齢段階に応じた本・玩具・遊具が用意され、園庭に砂場・サッカーゴール・鉄棒・大型遊具の設備もある。4歳から幼稚園に就園し、スポーツ少年団・各種習い事・学習塾等を活用し、子どもの学びや遊びを保障している。小学校の先生が週に2回施設に来訪し、学習支援を行い、職員と週に1回「連絡会」を行って情報共有している。

##### 「改善が求められる点」

たいへんよく取り組まれており、大きな課題はありません。今後も、サービスの質向上に向けたさらなる取り組みを継続されることを期待します。

#### ⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度は2日間に渡り当施設をご評価いただきありがとうございました。さくらこども学園として4回目の第三者評価受審となりました。時代の流れと共に求められる支援、必要とされる取り組みが変化していく中、常に良質の支援が提供できる施設であり続けるために、この度評価していただいた項目は更なる質の向上を目指して取り組み、ご指摘いただいた項目は早急に改善を図っていきたいと思います。今回の受審をこどもたちの支援に反映できるよう全職員取り組んでまいります。

#### ⑨第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（児童養護施設）

### 共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

#### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
基本理念、・運営方針を、パンフレット・ホームページ・事業計画等に記載している。基本理念は法人の使命・目指す方向を明示し、運営方針は基本理念と整合性が確保され、職員の行動規範となる具体的な内容となっている。基本理念・運営方針は、毎年、「事業計画説明会」と「基本理念・基本方針」研修の中で、解説文書のパワーポイントを用いて説明し、職員全員に周知を図っている。施設内の各所に掲示すると共に、毎朝のミーティングでも唱和を行い共有に努めている。子ども・保護者には、わかりやすく説明した資料「さくら学園ってどんなところ？」の中で、基本方針・運営方針・子育て理念について説明し周知を図っている。機関紙の表紙にも毎回掲載している。		

#### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
社会福祉事業の動向は、「全社協福祉ビジョン」「全養協通信」、「ひょうごの福祉」等の行政資料から把握に努めている。地域の福祉計画については「赤穂市地域福祉計画」から、地域の現状や課題は「赤穂市要保護児童対策地域協議会」に参加し把握している。毎月「月次報告書」を作成し、コスト分析や稼働率等の把握・分析を行っている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

経営課題については「児童施設運営会議」で分析し、具体的な課題・改善に向けた取り組みを明確にし、次回の会議で進捗や結果を報告している。経営状況や課題について、役員会で役員間の共有がなされている。稼働率については毎月の職員会議で詳細に周知し、「児童施設運営会議」後には会議の内容を供覧で報告している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

「経営5ヵ年計画」を策定し、基本理念の実現に向け、中・長期的なビジョン(重点目標)を明確にしている。法人の強み・課題をもとに、計画の推進方向として施設の取り組みを具体的に明示し、実施状況の評価を行える内容となっている。「経営計画検討委員会」(年4回)で、進捗状況の検証を行い、必要に応じて見直す仕組みがある。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

「経営5ヵ年計画」をもとに、単年度の「事業計画」を策定している。項目別に、実行可能な具体的な内容となっており、実施状況の評価を行える内容となっている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画を職員に配布し、4月の「事業計画説明会」で説明し職員の周知と理解を図っている。4半期ごとに「事業計画進捗状況」(事業計画の内容・実施状況・今後の予定)を作成して進捗状況を把握し、必要に応じて見直しを行っている。進捗状況は施設長会議(年3回)の中で検証している。年度末には、事業計画の項目ごとに担当の委員会・役職者の意見を集約し、「合同幹部会」で事業報告書を作成し、次年度の事業計画の策定につなげている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画の中で、特に子どもの生活に関わる養育・支援、居住環境の整備などについては、「さくらこども学園ってどんなところ？」・機関紙・広報誌にわかりやすく記載し、子どもには全体会議で説明している。参加を促す観点から、上記資料の中で行事についても、写真を使いわかりやすく説明を工夫している。保護者には、必要に応じて、簡略化した事業計画資料を用いて説明している。

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

毎年、法人の内部監査、第三者評価の評価基準にもとづいて、法人・施設として評価を行う体制があり、また、各種会議・各種委員会でも評価を行い、PDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。定期的に第三者評価を受審している。「サービス評価委員会」を評価結果を分析・検討する場として位置づけ実行している。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

評価基準の項目別に担当する委員会を決め、自己評価を行っている。自己評価の評価結果から、課題や取り組むべき内容の一覧を作成している。サービス評価委員会の委員(各委員会の委員長やユニットリーダー)が各委員会・職員会議・棟会議で報告し共有を図っている。課題について改善に取り組んだ内容は、サービス評価委員会の議事録に記録している。



【コメント】  
 施設長は、定期的に第三者評価を受審し、また、受審しない年も第三者評価の評価基準に沿って施設の自己評価を行い、養育・支援の質の現状について評価・分析し、各委員会や専門職員が中心となって改善に取り組んでいる。施設長は棟会議・職員会議等の会議、各種委員会での職員の意見を把握し、また、年に3回の個人面談でも職員の意見を把握し、担当会議・委員会で話し合い養育・支援の質の向上に取り組んでいる。施設内研修・施設外研修・階層別研修計画を策定し、計画的な施設内研修の実施や施設外研修の受講奨励等、職員の教育・研修の充実を図っている。施設長は、県の児童養護施設協議会会長等に参加し、また、施設外研修を積極的に受講し、自己研鑽に励み専門性の向上に努めている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】  
 施設長は毎月、稼働率・職員配置・収支等の分析を行い、分析資料をもとに法人の「児童施設運営会議」で経営改善・業務改善に関する課題を報告し、具体的な取り組みを進めている。「児童施設運営会議」の内容は、職員会議・資料の供覧・申し送り等で職員に周知している。施設内の主任・副主任会議、衛生推進委員会が中心となり、各会議・各委員会等で共有し、職員が参画して経営改善・業務改善に取り組んでいる。施設内の衛生推進委員会・人材確保対策委員会等が連携し、職員が働きやすい環境整備に取り組んでいる。

## 2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】  
 事業計画で、「人材育成の積極的展開」を重点項目として採り入れ、福祉人材の育成に関する方針を明示している。入所者数に応じた職員体制を基本とし、必要な専門職員配置を、管理規定で明確にしている。人員の充足度を毎月、職員配置人数チェック表により確認し人材確保を行っている。階層別研修・チューター制度・資格取得等による人材の育成が行われている。法人として定期的に意向調査を行い、人材確保対策委員会が採用計画をもとに人材確保を行っている。ホームページ、就職説明会、養成校・ハローワーク訪問、見学・実習生受け入れ等の採用活動を実施し、法人独自の奨学金制度も設けている。心理療法担当職員・家庭支援専門相談員等の加算職員を配置し、人員体制の充実に努めている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

人事考課ハンドブックの考課ガイドラインの中に「求める人材像」を明確にしている。就業規則・人事考課ハンドブックで人事基準を明確に定め、入職時の配布・説明とともに、改定時は臨時職員会議を開催して改定書面を配布・説明し周知している。人事考課制度を導入し、「自己点検表」及び「自己成長シート」に基づいて、成績評価・専門要素評価・上位者評価を行い、専門性・能力・成果・貢献度等を評価する仕組みを整備している。法人本部で処遇の水準について把握し、「経営会議」で処遇改善についての必要性や改善策を検討し実施している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

業務分担表で、労務管理に関する責任者を施設長としている。施設長は「勤怠システム」で職員の就業状況を把握し、有給取得状況や勤務時間等の管理は法人本部が行っている。施設内の衛生推進委員会が主導し、健康チェック表で体調確認を毎日実施し健康管理を行っている。法人として健康診断・ストレスチェックを実施し、ワクチン接種の無償化を実施している。施設長は、定期的、また、随時に面談等の機会を設け、相談しやすい環境整備を行っている。法人に直接相談できる仕組みを制度化し、事業計画説明会等で職員に周知している。職員会議や面談等で把握した福利厚生についての職員の希望を、厚生委員会等で検討している。短時間就労、半日有給、育児・介護休暇休業制度、復職の推奨等、ワークライフバランスに配慮した取組を行っている。職員の意向に応じたシフト調整や、有給休暇の取得促進等、働きやすい環境整備に取り組んでいる。通常は、忘年会・懇親会等も開催している。衛生推進委員会・厚生委員会・人材確保委員会・研修委員会等が連携し、福利厚生の充実・ワークライフバランスに配慮した取組・研修体制の充実等、人材の確保・定着の観点から働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標（目標項目、目標水準、目標期限）が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末（期末）面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○



【コメント】

個人目標管理制度を整備しており、職員個々の目標管理の仕組みが構築されている。施設の目標に沿った自己成長シートの個別的成果目標を、組織として期待する職員像に位置づけている。年度初めの人事考課面談時に、目標項目、目標水準、目標期限を明確にした目標設定を行っている。4ヶ月・8ヶ月目に進捗状況・達成度を考課者と相互に確認し、12ヶ月目の年度末にフィードバック面談を行い、次年度の目標設定につなげている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

施設内・施設外研修計画、階層別研修計画に、施設が職員に求める専門資格や専門性を明示している。「令和3年度施設内研修・施設外研修年間計画」を作成している。施設内研修は職員会議内で実施し、研修内容に応じてアンケートを提出している。欠席者には会議録・資料の供覧により周知している。「令和3年度、施設内での勉強会記録」を作成し、研修委員会が実施状況を確認している。外部研修に関しては、令和2年度は開催中止等で受講はなかったが、令和3年度は、感染状況に留意しながら、児童福祉施設新任職員研修・キャリアアップ研修等に参加している。受講者は「研修報告書」を作成し、職員会議で伝達研修を行っている。年度末に「職員研修参加一覧」（個別）を作成し、受講実績・希望する研修等を把握している。研修委員会で各研修の反省・振り返りを行うとともに、研修報告書の感想欄等をもとに年度末に評価を行い、次年度の年間研修プログラムに反映している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

「職員資格取得状況一覧」「職員研修参加一覧」を作成し、職員個々の専門資格の取得状況や知識・技術水準等を把握している。新入職者には、法人が入職前3日間の新人研修を実施し、配属後は、指導担当職員が「チューター制度実施要項」に沿って個別にOJTを実施している。新入職者は「振り返りシート」「1ヶ月の報告書」を作成し、指導担当職員は「児童施設運営会議」「チューター研修会」「施設長会」でOJT実施状況を報告している。法人のマネジメント基礎研修・施設内の年代別研修等の階層別研修、施設内での心理判定職員対象研修、厨房職員対象の外部研修等の職種別研修、施設内研修でのテーマ別研修等、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。「外部研修案内ファイル」を事務室に設置して情報提供し、特に専門資格取得のための受講を推奨している。職員が参加しやすいよう、施設内研修は基本的には職員会議の中で実施している。外部研修についても、地域交流スペースでのリモート研修、交通費・受講料の法人負担等、職員が参加しやすいよう配慮している。各棟に、基幹職員・経験年数が長い職員を配置して指導・助言を行い、また、大学教授を招請し、外部のスーパーバイザーによる職員の専門性の向上に努めている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生を、積極的に受け入れている。(令和2年度12名他)。実習生受け入れマニュアルを整備し、実習生受け入れについての意義等基本姿勢を明示している。社会福祉士・保育士が受け入れ窓口になり、オリエンテーション時に「実習時の留意点」に沿って注意事項の事前説明を行い、「実習に関する誓約書」を交わしている。養成校が準備したプログラムを参考にしながら、施設で、職種に応じた「保育士用実習プログラム」「社会福祉士用実習プログラム」を用意している。職員会議時に、養護課長・社会福祉士が「実習生受け入れマニュアル」「実習生受け入れに当たり」を配布して指導者に対する研修を実施している。大学と連携協定を締結し、継続的に連携を図っている。事前の打ち合わせ・指導教員巡回時の振り返り等により、プログラムに沿って学べるように調整・支援を行い、実習後「評価表」を作成し学校に送付している。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者  
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページに法人の理念・基本方針、養育・支援の内容等を掲載している。予算、決算情報は、社会福祉法人財務諸表等電子開示システムにより適切に公開されている。第三者評価結果はWAMNETで公表している。苦情相談体制について、苦情解決フローチャートの施設玄関への掲示している。現時点で苦情等はないが、あればホームページで公開するよう調整している。事業計画・事業報告について、公開用ファイルを施設玄関への設置し公開している。広報誌「さくらだより」を小中学校・公民館等に設置し、法人として機関誌「SAKURADANI」を地域に配布している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

業務分担表で、財務・経理管理に関する権限・責任を明確にしている。入職研修時に就業規則・経理規定等を配布・説明し、職務分掌は毎年配布し職員に周知している。年1回、「自主内部点検チェックリスト」に沿って内部監査を実施し、指摘事項があれば、法人本部へ改善状況を報告している。法人として会計監査人や監事による監査を受け、指摘事項に基づいて法人として改善を行っている。定期的に会計士が施設に訪し、会計支援を行っている。外部の専門機関と契約し、必要に応じて経営コンサルタント・弁護士・社会保険労務士等専門職者による監査支援を実施している。監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。

第三者  
評価結果

①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

法人基本理念・施設運営方針に「地域社会との共生」、法人の経営5か年計画に「地域貢献への積極的展開」等、地域とのかかわり方について基本的な考え方を文書化している。例年は、子どもが、夏祭り・秋祭り等地域行事に参加する際、職員が支援している。学校行事（体育祭・スポーツフェスティバル）、子供会活動・スポーツ少年団活動（剣道）・サーカスの招待等に、必要に応じて職員が同行し参加を支援している。自治会・子供会・スポーツ少年団活動や、地域・学校行事への参加を通じて、地域の人々との日常的なコミュニケーションを心がけ、施設や子どもへの理解を得よう努めている。買い物、通院、美容院、理髪店、図書館、市民体育館（スイミング）等日常的な活動についても、地域における社会資源を利用するよう推奨している。門限は設けているが学校の友人等の来園を歓迎し、遊び用具の提供等施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。

②

24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。

b

	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

行事支援・楽器遊び・絵本の読み聞かせ・インターンシップ等ボランティアが来訪している。「ボランティア受け入れマニュアル」を整備し、定義・主旨等の基本姿勢、注意事項等を明文化している。大学生の福祉体験・インターンシップの受け入れ等、学校教育への協力に取り組んでいる。新規のボランティアには事前のオリエンテーションの中で「ボランティア活動・実習時の留意点」に沿って、子どもとの関わり方や、個人情報の遵守について注意喚起を促し誓約書を交わしている。「ボランティア受け入れマニュアル」に、学校教育への協力についての基本姿勢を明文化することが望まれます。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

子どもの状況に対応できる社会資源リスト「さくらこども学園関係機関連絡先一覧（子ども家庭センター・学校・市県施設・学習塾・病院等）」を作成し、職員会議・各棟への掲示で共有している。県養協施設長会、特別支援学校・小学校連絡会等、関係機関との定期的な連絡会に参加している。通常は、給食施設連絡協議会・地域の連絡協議会（民生委員・自治会長・学校教諭等で構成）にも参加している。登下校時支援・地域の伝統文化継続支援等、地域共通の問題に対して情報共有し、共同して解決に取り組んでいる。例年は、給食施設連絡協議会の研修・訓練に参加し、災害時に予想される問題に備えている。市・子ども家庭センター・地区会長等と連携し、里親の支援方法についてネットワーク化を図り、子どものアフターケアに取り組んでいる。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

施設が実施する「子育てサロン」や、法人の「地域貢献推進委員会」活動、地域の「連絡協議会」への参加等を通じて、ショートステイ事業等福祉ニーズの把握に努めている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

法人として、地域住民を対象にアンケートを実施し、地域の福祉ニーズの把握に努めている。週に1回、学園内の幼児棟、園庭を開放し、就園前の親子を対象に「子育てサロン」を実施している。「子育てサロン事業日誌」「子育てサロン参加者名簿」を作成し、相談等があれば記録として残している。例年は、里親・ファミリーホームの充実のために、市・子ども家庭センターと連携して里親出前講座を開催している。年数回、入所者とともに海岸・通学路・公園等の清掃活動を実施している。近隣の市町、保育園・学校等と連携を図り、事業計画に明示してショートステイ事業を展開している。例年は法人として地域の夏祭り・秋祭り等の行事への協賛・協力等、地域の活性化に貢献している。遊び場の提供や、親子ふれあい遊び等を通じて、保育士や心理士、栄養士等が多様な相談活動を行っている。地域住民の被災時に、施設を避難所として開設することを表示するとともに、被災者支援用に飲料水・食品の備蓄と毛布・カセットコンロ等の備品の備蓄を行い、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。AEDを設置し、ステッカーを玄関ドアに貼付している。

### Ⅲ 適切な養育・支援の実施

#### 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。 <input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。 <input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	a  ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 子どもを尊重した養育・支援の実施について、「基本理念」「運営方針」「子育ての理念」に明示し、事業計画説明会・理念研修で理解を深め実践につなげている。「倫理綱領」をマニュアル集に入れ、職員全員が所持し周知を図っている。「基本支援マニュアル」でも言及し、個々の支援に反映できるよう取組んでいる。子どもの尊重や基本的人権への配慮について、「人権チェックリスト」研修の中で自己評価を行い、個々の振り返りを行うと共に、権利擁護委員会による集計結果を対応や改善策に反映できるよう取組んでいる。		
②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。 <input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。 <input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	a  ○ ○ ○ ○
【コメント】 子どものプライバシー保護について、「プライバシーマニュアル」を作成し、全職員がマニュアル集を所持して周知を図ると共に、職員会議でマニュアル研修を行っている。「人権チェックリスト」にプライバシーの項目を設け、研修の中で振り返りを行い、プライバシー保護に配慮した養育・保育の実践に取り組んでいる。子どもや保護者に、「さくらこども学園ってどんなところ？」に沿って施設の設備や生活について説明する際に、プライバシー保護についても説明している。		
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。 <input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。 <input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。 <input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。 <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	a  ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 施設の理念・基本方針、養育・支援の内容やの特性等を紹介する資料として、「さくらこども学園ってどんなところ？」を作成している。資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等でわかりやすい内容になっている。見学の希望に対応し、「家庭支援マニュアル」に沿って個別に丁寧な説明に努めている。資料の見直しは、年に1回、サービス評価の際に検証し適宜行っている。		

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所に際して、「家庭支援マニュアル」に沿って、主体的に選択できるよう、わかりやすい説明に配慮している。「さくらこども学園ってどんなところ？」と共に、保護者には「保護者の皆様へのお願い」や各種委任状等を説明し、文書で同意を得ている。子どもには、「さくらこども学園ってどんなところ？」と共に、「さくらこども学園での生活について」を説明している。意思決定が困難な子どもや保護者に関しては、「家庭支援マニュアル」に沿って丁寧な説明、親族も交えた協議を行い適正な説明と運用を図っている。また、中国語の資料や、イラストや写真による視覚的な資料を作成して説明した事例もある。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

退所に際しても、「家庭支援マニュアル」に沿って、保護者・子どもとの事前面接、各関係機関との協議・連携、移行の際の引継ぎ文書の作成等、養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。退所後も、子どもや保護者等が相談できるように、相談担当者を設置している。退所後の支援や相談窓口について、「退所後について」にわかりやすく記載し、退所日に説明して手渡している。退所後の支援は家庭支援専門相談員と担当職員が中心となって行っている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

毎年、アンケート調査を実施している。毎月「聞き取り調査」（暴力・いじめ・嫌なこと等）を、随時「話そう会」を、年に3~4回「全体会議」を実施し、子どもの満足の把握に努めている。「話そう会」「全体会議」に、職員が参加している。アンケート調査の担当を権利擁護委員会とし、調査結果を分析・検討し、議事録に「アンケート結果を受けて」を記載している。「聞き取り調査」の結果は、各棟会議・権利擁護委員会・職員会議で共有・検討し、改善に取り組んでいる。「アンケート調査」「聞き取り調査」の結果にもとづいた改善策や対応を、より具体的に議事録に記録し、職員が統一した方向性で具体的に改善に取り組み、進捗も確認できる仕組み作りが望まれます。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

解決責任者・受付担当者・第三者委員を設置し、苦情解決の体制を整備している。苦情解決の体制を記載した「運営規程」と、「苦情解決フローチャート」を玄関に掲示している。子どもには「あなたの未来をひらくノート」、保護者には「保護者の皆様へのお願い」を配布してわかりやすく伝えている。意見箱の設置、毎月の「聞き取り調査」・毎年のアンケートの実施等で、苦情を申し出やすい工夫を行っている。保護者からの苦情・要望・相談は、「保護者からの要望」に内容と対応を記録している。苦情・要望等は、棟会議・職員会議委で共有し、適宜改善を行っている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

「あなたの未来をひらくノート」で、施設内外の相談窓口や電話やはがきで相談できることを伝えている。「さくらこども学園ってどんなところ？」の「職員紹介」の中で職種別に説明し、また、「さくらこども学園で生活するあなたへ」に権利擁護委員会のメンバーを記載し、複数の相談相手を選べることを表している。「さくらこども学園で生活するあなたへ」を掲示すると共に、「全体集会」の中で説明し、資料として配布もしている。管理棟2階応接室・親子訓練室・心理治療室等、相談しやすいスペースを確保し環境に配慮している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

意見箱の設置・毎月の「聞き取り調査」・随時の「話そう会」・毎年の「アンケート調査」等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。また、日々の生活の中でも、相談・意見の傾聴に努めている。相談・意見を受けた際の対応は「児童から相談を受けた場合の手順について」のマニュアルに定められており、検討に時間がかかる場合の対応もマニュアルに明示している。子どもから出た意見に基づき、棟会議・権利擁護委員会・職員会議で共有・検討を行い、養育・支援の質向上に取り組んでいる。マニュアルは年に1回、サービス評価の際に検証し適宜改定を行っている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に見直しを行っている。	
【コメント】		
リスクマネジメントに関する責任者を施設長とし、衛生環境委員会を設置し体制を整備している。「安全管理マニュアル」「事故発生時対応マニュアル」「事故発生時初動対応マニュアル」を整備している。発生時に「事故報告報告書」「ヒヤリ・ハット報告」を作成し、供覧により迅速に周知を図っている。衛生環境委員会(2ヶ月に1回)でも「事故報告報告書」「ヒヤリ・ハット報告」を作成し、委員会議事録の供覧で周知を図っている。職員会議で委員会報告を行う際に、事故・ヒヤリハット事例の報告を行うと共に、事故防止策の実施状況や実効性についての評価見直しを行うことが望まれます。また、安全管理・事故防止に関する研修を行うことが望まれます。		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
【コメント】		
感染症対策に関する責任者を施設長とし、衛生環境委員会を設置し体制を整備している。「衛生環境マニュアル」に「感染症マニュアル」を整備し、年に1回、サービス評価の際に検証し適宜改定を行っている。年に2~3回、衛生環境委員会が感染症に関する研修を実施している。マスク・手指消毒・施設内消毒・検温・換気・職員の健康チェック等、日常的な感染症予防策を講じ、チェック表で点検している。発生時には、各ユニットに設置した対応セットの使用、隔離対応など、適切な対応を行っている。		
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
【コメント】		
「防災マニュアル」「自衛消防隊編成表」を作成し、立地条件から想定する災害を含め様々な災害の対応体制を定めている。BCP(事業継続計画)も作成している。保護者と児童の連絡先一覧表・職員緊急連絡網を作成し、電話・SNS・ライン等を活用し安否確認できる体制を整備している。避難時の集合場所を決め、実際に児童と一緒に経路を確認している。「備蓄リスト」を作成し、栄養士を管理者として備蓄を行っている。防災イベントを行い、防災のクイズや体験を通して理解を深めると共に、備蓄品を調理し試食する機会を設けている。		



## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○
【コメント】		
養育・支援について標準的な実施方法を「基本支援マニュアル」に文書化し、子どもの尊重や権利擁護、プライバシーに関して記載している。また、プライバシーマニュアルにも記載している。各職員がマニュアルファイルを所持し、周知を図っている。また、マニュアルの内容を「業務チェック表」に落とし込み、日々チェックすることで理解を深めると共に、実施できているかを確認する仕組みがある。「基本支援マニュアル」「業務チェック表」についての研修も実施している。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【コメント】		
マニュアルは、年に1回サービス評価の際に検証し、適宜改定を行っている。「基本支援マニュアル」「業務チェック表」についての研修後に、衛生推進委員会でアンケートを行い、職員の意見をマニュアルの検証に反映している。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○
【コメント】		
自立支援計画策定の責任者を施設長としている。「入所時アセスメントシート」「年間アセスメントシート」「個人年まとめシート」をもとにアセスメントを実施している。各種専門職者が参加する棟会議で、アセスメント・自立支援計画の協議を行っている。子ども一人ひとりのニーズは、自立支援計画の「支援上の課題」欄に明示している。毎月の「生活状況報告シート」に担当職員が振り返りをまとめ、棟会議で共有・検討することで、支援困難なケースにもチームとして対応できる仕組みを作っている。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画に沿って養育・支援が行われていることを、毎月の「生活状況報告シート」、学期毎の「経過観察記録」で確認している。自立支援計画の作成と見直しは、「自立支援計画フローチャート」に沿って、8種の書類を作成しながらPDCAサイクルにもとづいて実施している。見直した自立支援計画の内容は、棟会議で周知している。「生活状況報告シート」について毎月の棟会議で共有・検討しているため、緊急に変更が必要となった場合にも対応している。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

毎日の子どもの生活状況は「生活日誌」に記録している。身長体重や通院等に関しては罹患ファイルを個別に記録している。自立支援計画の実施状況は、毎月の「生活状況報告シート」と学期毎の「経過観察記録」により確認できる。記録の書き方については、「アセスメントシート」「記録の書き方」研修を実施し、また、添削による個別指導により、差異が生じないように取り組んでいる。職員会議・棟会議を月1回、各種委員会を定期的に開催し、部門横断で情報共有している。各種会議・各種委員会の議事録や棟日誌を供覧し、確認印で共有を確認している。各棟にパソコンを配置しており、共有システムでも情報共有している。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

法人の「個人情報保護規程」「文書管理規程」、施設の「個人情報保護マニュアル」に、記録の保管、保存、廃棄、情報提供、不適正な利用や漏えいに対する対応等について定めている。記録管理の責任者は施設長としている。職員は、入社時に個人情報保護に関する研修を受け、守秘義務に関する誓約を行っている。毎年の事業計画説明会で言及し、年2回の「人権チェックリスト」研修の中で意識付けを行っている。個人情報の取り扱いについては、子ども家庭センターが保護者に説明して同意を得ており、施設としては個人情報の管理として「名前」と「写真」の使用についての制限の有無を入所時に意向確認している。子どもには、「あなたの未来をひらくノート」を用いて説明している。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

子どもの権利擁護について、「権利擁護マニュアル」を整備している。年に2回「人権チェックリスト」研修を実施し、規定に基づいた養育・支援の実施について確認している。毎月の「聴き取り調査」・随時の「話そう会」・意見箱の設置等、権利侵害の防止と早期発見のための具体的な取り組みを行っている。毎月の聞き取り調査の結果を棟会議・権利擁護委員会・職員会議で共有し検討する機会を定期的に設けている。子どもの思想・信教の自由について保障しており、子どもたちにも「あなたの未来をひらくノート」を用いて伝えている。

(2) 権利について理解を促す取組	<p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
-------------------	---	---

【コメント】

入所時に、「あなたの未来をひらくノート」を用いて、権利について説明している。年度初めに「全体集会」を行い、パワーポイントを使いわかりやすい説明を行っている。子どもが意見を出し合って、子どもも大人も守る「グランドルール」や各ユニットの目標を決め、それらの実践を通して子どもの自他の権利擁護につながるよう取り組んでいる。日常生活の中で、また、毎月の「聴き取り調査」や随時の「話そう会」の中で、自他の権利の理解や権利を守る行動について伝えている。年に3回「人権学習会」を実施し、高校生・中学生・小学生・幼児のグループに分け、それぞれに応じた人権学習の機会を設けている。各ユニットを異年齢に構成し、年下の子どもや弱い立場にある子どもに対して思いやりの心をもって接することができるよう職員が支援している。また、全児童で食事をする「食堂ごはん」の日を設け、ユニットを越えた異年齢児童等との交流の機会を作っている。

(3) 生き立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

生き立ちについて、子どもの知りたいという気持ちを尊重しながら、年齢や発達状況を考慮し、保護者・こども家庭センターの意向も踏まえてライフストーリーワークを行っている。伝えるタイミングや内容を棟会議で検討し、また、こども家庭センターが作成した資料を使うこともあり、伝える内容については子ども家庭センターと情報交換しながら慎重に対応している。ライフストーリーワークの経過については、「生活状況シート」に記録し、職員会議でも共通理解を図り、多職種が連携して適切なフォローに努めている。子どもの成長記録については、学期ごとに写真を現像し、職員や本人が写真にコメントを記入してアルバムを作成し、子どもが希望する場所に保管しつつも見えるように配慮している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があつた場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みが工夫されている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があつた場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

子どもに対する不適切なかかわりについて、「施設内における不適切な関わりへのフローチャート」「就業規則」に基づいて、厳正に対応する仕組みがある。不適切なかかわりを発見した場合は施設長に報告することも、フローチャートに明示されている。毎年、「人権チェックリスト」による振り返りと研修、「施設内虐待防止」研修を実施し周知徹底を図っている。子どもに対しては、「あなたの未来をひらくノート」を配布し、いじめ・暴力・性的被害への対応について説明している。全体集会でも、共通理解の機会を設けている。毎月の「聞き取り」の際にも事案がなかったかを確認し、伝えることで不利益がないことも伝えている。子どもの年齢や発達に応じた性教育を行い、正しく理解できるように取り組んでいる。食堂や各ユニットに「さくらこども学園で生活するあなたへ」を掲示し、外部の相談機関も明示している。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	○

【コメント】

毎月子ども全員に行う「聞き取り」調査や日々のコミュニケーションから出た意見をもとに、随時「話そう会」を開催し、自分たちの生活について話し合う機会を設けている。話し合いの下で決定したユニットのルールを、ユニット内に掲示して共有し、自分たちの生活に反映させるよう取り組んでいる。施設全体の目標やグランドルールについては、子どもが提案した案を食堂に掲示して、投票により決定し「全体集会」で共有している。各ユニットの本棚に、絵本・漫画・小説・雑誌等、年齢や興味に応じて選べるように多種多数の本を揃えている。テレビも好きな時間に見れるようにしている。習い事・スポーツ少年団・ボランティア活動への参加も支援している。年齢や個々の能力に応じてルールを決め、買い物を通して金銭の使い方を学び、金銭感覚が身につくように支援している。子どもの状況に応じて、施設の「金銭管理帳」をもとに、将来の進学や自立等に備えて長期的な金銭管理について説明し話し合う機会も設けている。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

「家庭支援マニュアル」をもとに、関係機関と連携し、入所・退所時の支援を行っている。入所前に子どもと面接を行い、「さくらこども学園ってどんなところ？」を使う等、施設や入所後の生活をわかりやすく説明し不安の軽減に努めている。状況に応じて、ならし保育も取り入れている。入所日は、事前面接を行った職員が迎え入れたりと、好きなメニューを用意する等、子どもが溶け込みやすいように配慮している。入所前の学校との連絡、先生や友人からの手紙・面会の受け入れ等、それまでの人間関係が継続できるように配慮している。家庭復帰や施設変更で退所する際は、転入先の学校や市の担当者等と必要に応じて協議、情報共有、退所後の役割分担を行い、安定した生活が送れるよう支援している。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所に際して、学園から自立する際は、リービングケアについての「冊子」を渡し、家事や社会生活に必要なマナーや冠婚葬祭に関する知識を学べるよう支援している。具体的に自立後の生活をイメージし必要な家事が習得できるよう、「自立支援シート」「調理実習計画」をもとに、親子訓練室を利用した自立訓練を行っている。家庭引取りの子どもについては、退所後の生活が親子共にイメージできるような長期外泊を行い、親が記録する「外泊記録」をもとに状況を把握し、学校や子ども家庭センターと等と協議を行っている。保護者・子どもに「退所後について」を渡し、退所後の支援・相談担当者等について伝えている。「退所後の見守りについて」(マニュアル)に沿って、退所後の支援を行っている。退所者の状況は、「退所者一覧」の備考欄に記録している。アフターケアについては、年度別の「アフターケア記録」と、個人別の「退所後支援記録」に記録し、関係機関との連携や就労先等からの連絡対応についても記録している。お盆・クリスマス・卒園式等の施設行事の際に退所者が来訪し、退所者と職員・子どもが交流できる機会を設けている。

## A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	
	<b>【コメント】</b> 「基本支援マニュアル」をもとに、生活の場面での子どもとの関わり方の留意点等について職員間での共有に努めている。「子ども理解」等の研修を通して、子どもが表出する感情や言動と、子どもが抱える心理上の課題の理解等について学ぶ機会を設けている。子どもが表出する感情や言動、子供の心理上の課題、職員の対応等について個別の「生活日誌」に記録し、「月間記録」や棟会議・職員会議で共有し、多職種での支援につなげている。「子どもアンケート」の意見に、職員との信頼関係の構築に課題がある意見が一部ありました。子どもの安心感の担保、職員との信頼関係の構築に向け、さらなる取り組みを期待します。	
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="checkbox"/>
<b>【コメント】</b> 毎月子ども全員に「聞き取り」調査を行い、子どもと担当職員が話し合い、子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。基本的な1日の生活の流れは「デイリープログラム」に沿って行われているが、子どもの意思やスケジュールに応じて柔軟に対応している。ユニット毎に職員を固定し、ユニット職員が一定の裁量権を持っている。子ども一人ひとりが、個別の「月目標」を設定し、子どもと職員が日々振り返る時間を設けている。個別の買い物や外出行事の際に、職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。幼児には職員と一緒に寝ることで安心感を与え、宿直者が定期的に見回っていることを日々伝える等、夜、安心感が得られるよう配慮している。		
③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人の基本理念・施設の運営方針・子育ての理念に自立支援を明示し、毎年の事業計画にも位置付け、実践に取り組んでいる。「子どもを支援するにあたって職員に求められる姿勢」をもとに、自立支援への姿勢を共有し、見守り・放任・過干渉についての理解を深めている。子どもへの支援の経過については、個別の「生活日誌」に記録し、「月間記録」や棟会議・職員会議で共有している。毎日予定表を作成して職員配置を明確にし、職員が助け合い協力している。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

自立支援計画をもとに、年齢・発達状況・課題等に応じた養育が実施されている。「聞き取り調査」や「話そう会」等で子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限り応えられるようにしている。ニーズに応えられない場合は、個別や「話そう会」で理由を話し、納得できる説明に努めている。各ユニットに、年齢段階に応じた本(絵本・漫画・小説・雑誌等)・玩具(ままごと・ブロック・パズル等)・遊具(ボール・キックボード・一輪車・三輪車等)が用意され、園庭に砂場・サッカーゴール・鉄棒・大型遊具の設備もある。4歳から幼稚園に就園している。子供の学びや遊びに関する学校や地域の情報は、小学校との毎週1回の連絡会で把握し情報交換も行っている。スポーツ少年団・習い事・学習塾を活用し、子どもの学びや遊びを保障している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

デイリープログラムに沿って、子どもと職員が日々の生活を共にする中で、日常生活に必要な知識や技術を子どもに伝えている。子どもと職員が話し合い、施設の「目標」「グランドルール」、「ユニット目標」「ユニットルール」、「個人の月間目標」を作り、各ユニットに掲示して共有と意識付けを図り、実践できているかの振り返りも行っている。地域行事・法人の施設行事・ボランティア活動等に積極的に参加し、スイミング・剣道・習字等の習い事を奨励し、社会性を習得する機会を設けている。手洗い・うがい・検温を習慣付け、年齢や発達に応じて職員と一緒に入浴して自立を支援する等、身体の健康について自己管理できるよう支援している。高校生を対象にした携帯委員会を開催し、職員と一緒に携帯電話の使い方・SNSの危険性について考える機会を持ち、一緒に「携帯規約」を作成している。トラブルや失敗があった場合は携帯委員会で共有し、必要に応じて規約の追加等を検討している。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気でき事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

デイリープログラムに沿って食事の基本時間を設定しているが、年齢や生活リズムによる個人差に応じて食事提供を行っている。冷たいものは冷蔵庫で保管し、温かいものは電子レンジで温め、適温提供できる設備がある。食事場所は明るく、水拭き・消毒・床掃除等で清潔を保ち、テーブルや椅子の配置はユニットの状況に応じて工夫している。通常は、子どもと職員と一緒に食事をし、コミュニケーションがとれる機会となっている。「食事アンケート」に毎食の残食量と献立ごとの感想を記録し、献立や調理法に反映している。また、食べたい物のアンケート結果を食事委員会で検討し献立に反映している。ユニット毎のイベントとして食事作り・お弁当づくり・お菓子作りを企画したり、食育行事としてのおやつ作りを各ユニットで行ったり、「食堂ごはん」（食堂で全員で会食）の際に調理や盛り付けに参加する等、食事やおやつを作る機会を設けている。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

「衣類管理表」で子ども一人ひとりに十分な衣類が確保できるよう管理し、担当職員と一緒に衣替えを行っている。子どもが自分で当日の服装を選び、適切に自己表現をできるように支援している。職員が毎朝服装を確認し、清潔で季節・TPOに合った服装ができるよう支援している。洗濯して個別のかごに入れられた衣類を、自分で引き出しに整理できるように習慣づけている。年齢に応じて、洗濯・アイロンかけ・補修等ができるよう、設備や道具を設置している。衣服を買いに行く時は、職員と子どもと一緒にいき、子どもが自分の好みで選択して購入できる機会を設けている。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>



【コメント】

男子棟・女子棟・幼児棟の3棟5ユニット体制をとり、同じ生活空間でも場所を区切る等、小規模グループでの養育を行う環境を作っている。小学生以上は個室を用意し、ベッド・勉強机・整理ダンス・日用品・学用品等を個別所有としている。個室に個々の趣味や好みに応じたものを飾り、掃除や整理整頓が習慣づけられるよう担当職員が支援し、居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。破損があれば迅速に修繕できるように対応し、子どもと一緒に修理することもある。共有スペースに、キッチン・食堂・畳のスペースやソファのスペースがあり、季節や季節行事に合わせた飾り付けを行い、家庭的な雰囲気の中で思い思いにくつろげるよう配慮している。壁に「ユニット目標」「ユニットの約束」や個別の「月間目標・チェック」を掲示し、意識付けを図っている。学校からの連絡や個別のスケジュール表等も掲示し、子どもが自分でスケジュール管理し、職員も情報共有して支援できるようにしている。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理が必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

毎月の身体測定・毎日の検温、未就園児には排便管理を行い、平常時の健康状態を把握し、定期的な健康診断を行っている。発達については定期的に発達検査により状況把握に努めている。健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携し、日頃から注意深く観察し、状態や経過を生活記録や罹患ファイルに記録しながら対応している。受診は「受診計画書」に基づいて行い、服薬は「服薬チェック表」で管理している。受診や服薬の必要性について子どもが理解できるように、受診時に医師からも説明してもらい、職員も説明するようにしている。施設内研修で「感染症予防」研修を行い、心理研修で「お薬ガイダンス」研修を行っている。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

「性教育マニュアル」を活用し、子どもが年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重し、性について正しく理解できるよう取り組んでいる。子どもの年齢・発達に応じて、性教育の年間計画を作成し、「台本」「絵本」等の手法を用いて、個別・少人数での学習会を実施し、実施記録を作成している。年齢に応じた異性への興味・関心については否定せず、健全な付き合いができるよう日々の生活の中で助言している。子どもの疑問や不安には、個別に対応している。毎年施設内研修の中で「性教育研修」を実施し、学ぶ機会を設けている。また、こども家庭センターの心理士からの助言を支援に反映している。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの暴力・行動上の問題に対して、「日常トラブルへの対応」（マニュアル）に沿って対応している。行動上の問題が発生した場合は、担当職員が子どもの理解者として常に子どもと共に対応し、孤立感や疎外感を感じないように配慮している。棟会議・職員会議で対応方法について共有し、施設全体で対応に取り組み、適切な援助技術について学び合う機会としている。状況に応じて、子ども家庭センターと協議し、専門医療機関と連携する等、関係機関と協働して支援に取り組んでいる。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになってきている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもを見守り、コミュニケーションの時間がとやすい職員の配置や勤務形態に配慮している。生活グループの構成については、個別に関わる時間をとやすい縦割り構成にし、子ども同士の関係性・年齢・障害への配慮の必要性等にも配慮している。課題のある子どもや入所間もない子どもについては、こども家庭センターと連携し、個別の配慮を行いながら援助している。子ども間に暴力・いじめ等が発生した場合は、「暴力問題への緊急対応マニュアル」に沿って、施設長の指示の下、権利擁護委員会が中心となって適切な対応ができる体制づくりを行っている。施設だけでの対応が困難な場合は、こども家庭センター・学校・医療機関と連携して対応している。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

心理療法を実施するために心理判定員2名を配置し、心理療法を実施するスペースとして心理治療室と観察室を確保している。心理的ケアを要する子どもについて、心理判定員がアセスメントを行い、自立支援計画に位置付けてカウンセリング・プレイセラピーを実施している。実施状況を「生活記録」に記録し、棟会議・月間報告等で共有し、施設全体の中で心理士の支援が実践できるよう取り組んでいる。施設内で「心理研修」を実施している。必要に応じて、子ども家庭センターの心理士や医師等から指導・助言を受けている。保護者に精神科通院時の同席を促し、医師から説明を受け、施設からも報告し、保護者の子どもへの理解が深められるよう援助している。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

小学生以上の子どもに個室を用意し、勉強机・本棚・学用品を個人所有とし、落ち着いて勉強できる環境を整備している。希望に応じて、親子訓練室の利用も許可している。小学校の先生が週に2回施設に来訪し、学習支援を行っている。小学校の先生と施設の職員が週に1回「連絡会」を行い、学校での様子・忘れ物や宿題の未提出について把握している。職員が「毎日学習計画」を立て、学習状況を確認しカレンダーにシールを張る等、楽しく学習し達成感が感じられるよう支援している。また、中学生以上の子どもは、希望に応じて地域の学習塾を利用している。障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

「進路決定までの流れ」(マニュアル)に3歳からの流れを、途中から「進学の場合」「就職の場合」に分けてわかりやすく記載し、マニュアルに沿って進路決定を支援している。小学校1年生以上の子どもについて、「進路希望調査」を年に3回行い、子ども一人ひとりと進路について話し合い、必要な情報提供も行い、進路の自己決定を支援している。高校3年生は、個別の「月別スケジュール」に沿って計画的に進められるよう支援している。自立支援計画書作成時には、保護者や関係機関の意見も聞いている。学校と連携を図りながら、希望校の資料を取り寄せたり、オープンスクールやオープンキャンパスへの参加を支援している。「奨学金一覧表」を作成し、希望に応じて、奨学金の利用に向けた支援も行っている。その他の支援事業についても、子ども・保護者に情報提供し、必要に応じて一緒に検討している。高校卒業後の子どもの状況に応じて、措置延長も含め現状に即した個別支援を関係機関と連携しながら行っている。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

主にアルバイトの機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。「アルバイト実施規程」を作成し、規程に沿って実施している。個別に「アルバイト情報」を作成し、「アルバイトの内容」「約束事項」「職員の支援・配慮」を明確にし、安全に意義のある経験ができるよう取り組んでいる。アルバイト先を自分で見つけることも社会経験と捉え主体性を尊重しているが、相談に応じたり必要なサポートは行っている。法人内の施設や関係機関の協力を得る体制もある。資格取得を積極的に奨励し、取得している資格の「一覧表」を作成している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

「家庭支援マニュアル」を作成し、家族と子どもの関係調整についての支援方針・支援方法を明確にしている。家庭支援専門相談員が中心になるが、施設として支援の統一が図れるよう、「家庭支援マニュアル」の研修を毎年実施している。入所時は必ず担当職員と家庭支援専門相談員が対応し、施設の方針や入所後の連絡・報告について説明し、家族との信頼関係の構築に努めている。入所後は、面会・電話・手紙等を通して、子どもについての情報共有と家族の思いの把握に努めている。学校行事・三者面談・受診等への参加や同行も促している。家庭支援専門相談員は、棟会議や「月間報告」等で進捗状況を確認し、適切な支援が行えるよう調整している。家族の面会が困難な場合は、子どもの成績表・作品・写真・施設の機関紙等を送付し、関係継続に努めている。外泊を行う際は、事前の家庭訪問・外泊中の電話連絡等、子どもや家族の不安軽減に配慮している。家族・子どもが記録する「外泊の記録」をもとに、外泊中の様子を把握し、外泊後は「振り返りシート」を作成し、子どもの様子を丁寧に観察し必要な対応を行っている。状況に応じて、こども家庭センターと連携し対応している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

「家庭支援マニュアル」に沿って、担当職員と家庭支援専門相談員が中心となり、親子関係の再構築に取り組んでいる。「自立支援計画」策定時に、年間計画において家庭引取りが可能かどうかを、棟会議・職員会議で検討している。「ケース記録」「月間報告」等で経過を共有し、施設全体で支援に取り組んでいる。こども家庭センターと随時協議を行いながら支援方法を確認し、面会・外出・外泊等に対応している。初めての外泊や長期外泊の際は、事前の家庭訪問や外泊中の電話連絡を行い、また、「外泊の記録」や「振り返りシート」を活用し親子関係の再構築を支援している。